

建学の理念「世に役立つ人物の養成」に基づき、良き社会人・良き家庭人として生きる力を持つ女性の育成を目指す。

- (1) 社会人・一人の女性として必要な常識・礼儀・教養を身につける。
- (2) 生きていくうえで必要な学力をつける。
- (3) 帰属意識・愛校心を育成する。を教育目標とする。

[目指す学校像]

- (1) 学力が伸長し、礼儀正しさ・思いやり社会性など豊かな心を育てる学校
- (2) 生徒が明るく生き生きとした学校
- (3) 生徒の夢や希望が広がり、実現できる学校
- (4) 保護者が満足し、保護者に支援される学校
- (5) 近隣地域に信頼され支援される学校

[教員基本姿勢]

1. 十分な意思統一をし、教科指導、生徒指導に当たる。
2. 専門職としての自覚と誇りを持ち、積極的に自己研鑽を行い、指導力の向上に努める。
3. 生徒と関わる機会を増やし、生徒個々の状況や動向をたえず把握し、粘り強い指導を親身になっておこなう。

[重点目標]

1. **基本的生活習慣の確立と規範意識の育成**

校則の遵守

- ・入学時から生徒・保護者に本校の指導方針や校則について充分理解させる。
 - ・ 全般的に、自己中心的な者・他者に対する許容量の少ない者等、高校生としても未熟な者が多く、受動的にしか物事を判断できない傾向が強い。(1学年)
 - ・ 頭髪検査は、始・終業式と、1学期は3週毎に、2学期は月毎の全校集会の折に指導を行った。今年度は1年生に全く指導に従わない生徒も出始め、帰宅指導も公欠で帰れるという意識で、黒に戻すまでには日数を要する結果となった。現在、極端な茶髪の生徒は見られないが、検査の時には黒くてもすぐに色落ちする生徒や、黒が入らないと訴え、茶髪を正当化する生徒や保護者からの訴えを含め指導が難しくなっている。更に、違反生徒の中にはカツラ、エクステンションをつけている生徒も増えてきたように思われる。帰宅指導を含め厳しめの指導が必要と思われる。(生活指導部)
 - ・ どの学年も学期を追うごとに早朝登校指導に該当する生徒が増えており、遅刻を重ねる生徒は固定化し、指導に乗ってこない生徒も多くなっている。2学期に入り保護者宛に遅刻の実態を報告する書簡を送り、保護者の協力を仰ぐが、顕著に改善される様子もなく、効果の度合いは薄い。(生活指導部)
 - ・ 一般生徒にとって、早朝登校は抑止効果となっている。(生活指導部)
 - ・ 遅刻指導については、生活指導の指導方針に沿って行ったが、一部生徒には、効果が見られなかった。(3学年)
 - ・ 集会など学年全体が集合する場合は、遅刻もないが、クラス単位や習熟度別授業など、その他の教室移動では

特定の生徒が遅刻している。(2学年)

- ・遅刻は、昨年度に比べ増加している。教室移動と同様、特定の生徒の遅刻が目立ち早朝登校やその後の指導など、担任の負担が増加している。(2学年)
 - ・遅刻者について、遅刻を繰り返す生徒は早朝登校指導を通して指導している。5日連続で早朝登校を終える者は少なく、抑止としての早朝登校指導にも限界を感じている。(1学年)
 - ・生徒会とも連携(意見交換)し、教員だけでなく、生徒自身の活動を通じて取り組む必要性を感じる。(3学年)
 - ・学年独自に委員会を活用することが出来ていない。行事や定期考査が同じようなサイクルで実施されるため、継続的な委員会を開くことが困難であることが1つの原因。(2学年)
 - ・家庭連絡を密にし、必要に応じて家庭訪問などを行い、保護者に理解を求めた結果、保護者からの苦情は比較的少なく、良好な関係を保つことができた。教員の努力が大切であると実感した。(3学年)
 - ・定期的に服装などの指導をおこない、生徒の規範意識を育てる。教員2名が教室に入り、点検を行った。今後も継続的な指導が必要である。(3学年)
 - ・ポイント制の導入により、校則違反は激減した。(2、3年、生活指導部)
 - ・ポイント制だけでなく生徒の自覚・意識改革を促す方策が必要(2年)
 - ・校外で如何に守らせるかが今後の課題であり、駅付近までの登校指導も必要。(生活指導部)
 - ・遅刻指導については、新しい指導システムを提案し承認された。(生活指導部)
 - ・禁煙対策として広報誌を作成、配布。巡視を強化したが、依然として喫煙の形跡あり。(生活指導部)
- ・登下校指導、マナ - 指導を全教員で取り組む。
 - ・通学指導を各学期始めに、ほぼ一週間単位で行った。(1学期：4/17～4/23 2学期：9/3～9/8)
 - ・校内巡視を全教員で実施、1週間単位で結果を報告。盗難、喫煙防止の意味でも継続的に実施する必要がある。(生活指導部)
 - ・校門指導を実施。教員数の不足が問題である。その場だけという生徒もいるが、一定効果を挙げている。(生活指導部)
 - ・下校指導は、教員数や放課後の教員が多忙で集まらないため、効果が少ない。(生活指導部)
- ・集会、通信を通じて指導方針、校則、マナ - の周知を図る。
 - ・生活指導便りを2回発行(生活指導部)
 - ・5月1日(木)1年生総合的な学習の時間に、タキモトから「美しい制服の着こなし」についての講演を実施(生活指導部)
 - ・2学期から全校集会を組入れ、規範意識を持たせる話しや、全教員協力のもとで、頭髪検査を行った。(生活指導部)
 - ・学期初めに、1年生には頭髪、服装、違反物品、携帯電話に関して、2・3年生には頭髪、服装、遅刻、アルバイト、運転免許取得に関しての指導方針や規則について、保護者向けに連絡文を配布した。(生活指導部)
 - ・ポスターにして校則やマナーに関する指導を実施。(生活指導部)

- ・集会などで声かけを行い、実践した。教員間の「温度差」を作らず指導するように心がけた結果、生徒からの不平や不満は出ていない。(3学年)
- ・保護者への協力や現状の報告などは、三者懇談時に、個々の生徒の状況にあわせて行った。家庭連絡は、適宜行っているが、特定の生徒の遅刻が目立っている。今後、授業態度に改善が必要な生徒には、指導方針も含め家庭連絡が必要である。(2学年)
- ・通信を発行しているが、保護者の手元に届いているとは考えられない。(2学年)

挨拶の習慣化

- ・挨拶指導を全教員で取り組む。
- ・授業の始まり、終わりに挨拶をさせる。
 - ・授業時の挨拶については、2年間の指導が功を奏し、概ね守られていた。(3学年)
 - ・1学期は学年集会を通じて、挨拶の練習は、授業の開始と終りでできると伝えただけであったが、2学期以降挨拶(礼)ができなくなっていたので、集会などで挨拶の練習を行っている。(2学年)
 - ・4月、9月に講師を招き、「マナー・礼儀作法・言葉遣い」に関する講座を実施した。(進路指導部)
 - ・全体での挨拶はできているが、日常の「おはようございます」などの挨拶ができていない。(2学年)

いじめの追放、人権の尊重

- ・携帯電話の使用マナー・ホムペジの扱い方を指導する。
 - ・5月8日(木)1年生総合的な学習の時間に、NTTドコモから携帯電話の使い方についての講演を実施(生活指導部)
 - ・重大ないじめは発生していないと思われる。生徒個人の事情や行き違いによって生じた問題も早期に解決できた。(3学年)
 - ・インターネットや携帯を用いたトラブルが数件あった。今後何らかの方策を検討する必要性を感じる。(3学年)
 - ・不登校生徒について、昨年度の情報を学年で共有し、指導しているが、一部成果が現れない生徒も見られる。(2学年)
 - ・交友関係・家庭環境・身体面・精神面等々、大小の問題を持った生徒は非常に多く報告されている。それぞれできるかぎり家庭と連絡を取りながら指導を続けている。特に不登校傾向の生徒、精神面で不安のある生徒については養護教諭、不登校委員会とも連携を取りながら指導を続けている。(1学年)

安全教育の充実

- ・4月8日(火)に避難経路の確認、9月24日(水)避難訓練を実施。訓練であるためか、緊張感に欠け、防災意識の向上には至っていない。(生活指導部)
- ・7月3日(木)総合的な学習の時間に、羽曳野警察署から講師を招いて、1年生対象に痴漢対策講演を実施、次年度も必要と考えられる。(生活指導部)
- ・交通ルールに関する指導はできなかった。(生活指導部)

独自課題

- ・ 11月10日(月)3年生総合的な学習の時間に、司法書士による講演「高校生法律講座」についての講演を実施(生活指導部)
- ・ 保健指導として、定期健康診断(4月10日)、普通救命講習会(7月15・16日)、性感染症講演会(1年生:6月19日 2年生:6月26日)を実施。(生活指導部)
- ・ 丁寧な言葉遣いや、挨拶ができるように指導した。概ね良好であると考えられるが、一部の生徒は職員室で教員を「ちゃん」付けや明らかにあだ名と思われる呼び方をしている。担任を中心に指導を行っているが、その生徒に呼ばれて教員が返事をした場合、生徒側からすれば「先生が返事してくれるからこのように呼ぶ」との論理が形成される事実も存在する。全教員が、「教師に対する言葉遣い」について共通認識を持たなくては、いつまで経っても敬語を使って教師と会話するような指導はできない。(3学年)
- ・ 言葉遣いの指導はできていない。(2学年)

2. 学力の向上

各教科の基礎・基本を理解

- ・ 各学期末において成績不振者に補習を実施する。
 - ・ 成績不振者については、継続的な個別指導が必要である。(1年)
 - ・ 学力補充のあり方については、今後の方策も含め、教員の共通理解が不可欠である。(教務)

学力補充については、運用面ではほぼ軌道に乗ったと言えるが、学習意欲が乏しい生徒に対する指導について、問題提起がなされた。教務部を中心に検討する必要がある。

- ・ 各教科は到達目標、授業計画について方針をたて、検証し目標達成に努める。
 - ・ 学年と教科担当との情報交換の方法を策定する必要がある。(2年)
 - ・ 学習意欲を向上させるための方法を策定する必要がある。(2年)
 - ・ 教員にも、生徒を惹きつける指導技術の向上が望まれる。(3年)
 - ・ 教務部としてカリキュラムの点検を実施した。(教務)

各教科の到達目標・授業計画については早期に総括を実施する必要があると同時に、教員の指導技術向上のための対策を講じる必要がある。研修会、授業公開・見学など、様々な方法を通じて、生徒の学習意欲喚起の方策も必要である。

- ・ 日常的にさまざまな生徒に対応した補充、補習を実施する。
 - ・ 教科によっては、目的意識を持った生徒を対象に、補習を行い、レベルアップを図った。(3年)
 - ・ 低学力生徒に対しての有効な指導が必要である。(3年)
 - ・ 二者懇談で、意識改革を行った生徒も少なくない。(3年)

有志補習については、一部教科の一部担当者により実施されているが、組織的な取り組みとはなっていない。

・授業態度の指導を徹底する。

- ・ 全般的に受動的な学習しかできないという傾向が強い。(1年)
- ・ 振り返りシートや予定表は、生徒の学習意欲の向上に対して、大きな意味は見出せない。(1年)
- ・ 全教科担当者に授業態度についての調査を行い、指導に役立てた。(1年)
- ・ 教室移動では特定の生徒が遅刻する傾向がある。(2年)
- ・ 授業態度に改善が必要な生徒には、家庭連絡が必要である。(2年)
- ・ 進路決定者の中に、学習意欲が減退する生徒がいた。(3年)
- ・ 振り返りシートや予定表は、一定の効果があるが、さらに工夫が必要である。(3年)
- ・ 授業以前に、美化活動も含め、より良い環境作りが必要である。(3年)
- ・ 課題を提出しない生徒も固定化している。指導法の策定が必要である。(3年)
- ・ 予復習の重要性については、集会などでも粘り強く指導する必要がある。(3年)
- ・ 振り返りシートや予定表は、必ずしも学習意欲の向上に繋がっていない。(教務)

教務部発案の振り返りシート、考査前の学習予定表は、意義を感じない生徒も少なくないが、一定の効果が認められる。より多くの生徒が学習意欲に結びつけることができるよう、書式の見直しなどの工夫が必要である。授業態度に問題のある生徒の割合が年々増加しつつあり、それにつられて学習意欲が減退する生徒も多い。環境美化、時間厳守、課題提出など、教員の意思統一のもと指導を継続する必要がある。生活指導ポイントシステムは、授業態度にも良い影響を与えている側面もあり、学習指導と生活指導両面でのバランスのとれた指導が望まれる。

授業時間の確保

- ・ チャイム即授業を徹底する。
 - ・ チャイム着席については、教員の指導により意識が高まった。(3年)

授業開始後の巡回でも、生徒が教室外にいるケースが報告されており、チャイムと同時に授業を始めるという教員側の意識がやや薄まりつつある。指導により改善されるとの総括もあり、教員が率先垂範すべき点のひとつである。

- ・ 出張・年休等の場合振り替え授業、振り替え不可能な場合課題を与える。

振り替え授業については、徹底されていない。今後の課題である。

3. 帰属意識の高揚

生徒会活動の活性化、行事の充実

- ・ リーダーを育成する。
 - ・ 委員会活動において、さらにリーダー養成に傾注すべきである。(特活)
 - ・ 生徒会役員の定例役員会は効果的であった。(特活)
 - ・ 全生徒からの学校行事などへの意見集約を考える(特活)

- ・ 各委員会の年間活動計画を作成する（特活）
- ・ 生徒会への立候補方法（各クラスより1名以上推薦）や役員定数の変更を検討する（特活）

リーダーの素養を持つ生徒に対する指導に手が回らない、あるいはそのような生徒が少なくなっているのか、役員選挙で立候補者が定数に満たないなど、リーダー養成が急務である。生徒数減という母集団が小さくなったという点との関連も検証する必要がある。

LHR有効活用

- ・ ホ・ムル・ム活動を通してクラス意識を持たせ、クラスの一員として自覚させ、集団としての規律、連帯感等を身につけさせる。
- ・ 年間指導計画を策定する。
 - ・ LHR で学年独自の企画を実施できていない。(2年)
 - ・ LHR で学年独自の企画を実施できていない。(3年)
 - ・ LHR の時間を、担任が生徒に倫理感・道徳面などを指導できる時間と捉え、独自の活動ができるように努力しなければならぬ。(2年)

従来便宜上 LHR で実施してきた進路学習や人権学習などを、総合学習の時間にプログラム化したが、諸行事の準備や事前学習などで、学年で自由に使える LHR の時間が少ないとの報告もある。LHR については、少なくとも学期ごとのプログラムが必要である。

クラブ活動を推進

- ・ クラブ入部率の向上に努め、クラブ活動を全校的に意識化させる取り組みを進める。
 - ・ クラブ顧問会議のあり方について検討すべきである。(3年)
 - ・ クラブ活動の内容や成果はもっと積極的に広報すべきである。(3年)
 - ・ クラブ活動の活性化については、その方策に苦慮している。(特活)
 - ・ 4月新入生対象に複数のクラブ活動見学を義務付ける（特活）

クラブ活動に限らず、課外活動に対する意識の低下に歯止めがかからない。放課後はアルバイトという生徒も非常に多く、実利的な方向に向かう生徒への指導法についても検討すべきである。

教育環境の整備・美化

- ・ 環境美化の活動を行い、美化意識の向上を図る。
 - ・ 生徒の美化意識は改善されない。(1年)
 - ・ 私物の整理ができない生徒がいる。(2年)
 - ・ 担任からの啓発により、美化意識が高まった。(3年)
 - ・ 美化委員によるさらなる啓発が必要である。(特活)
 - ・ 教員による清掃点検活動を実施すべきである。(特活)
 - ・ 保健委員会との連携を行う（特活）
 - ・ ゴミを分別することが美化意識の高揚につながる。(2学年)

学習活動についても環境美化が効果的との総括もあり、身の回りの整理をさせる指導の徹底や教員による清掃点検

<その他>

- ・ 帰属意識高揚のため、学年集会や学年通信を利用している。(1年)
- ・ 自主的に自ら考え行動することを指導したが、徹底しなかった。(1年)
- ・ 自己中心的な行動をとる生徒が多い(2年)
- ・ 諸行事については学年通信などで情報提供している。(2年)
- ・ 学年、分掌間での連携方法に課題が残る。(3年)
- ・ 生徒会組織や学年の活動について、検証が必要である。(3年)
- ・ 生徒会として、自治活動についての啓発を積極的に行う必要がある。(3年)
- ・ 緑涼祭や弁論、コーラス大会を通じて帰属意識が高まった。(3年)
- ・ 「好きです女短」というキャッチフレーズも定着し、帰属意識が高い学年である。(3年)
- ・ 生徒だけではなく、教員も学年を超えた繋がりが必要である。(3年)
- ・ 行事を消化するだけに終始した。(特活)
- ・ 諸行事の事前計画が十分ではなかった。(特活)

4. 進路意識を育て希望進路の達成

進路意識の育成

- ・ 進路学習を充実させる。
 - ・ 1年生は、職業観養成を目的として、外部講師を招いての講演、グループ単位での調べ学習を実施した。職業に対する意識の高揚が見られた。生徒に意欲的な姿勢が感じられたことで一定の成果を挙げることができた。(進路指導部)
 - ・ 2年生は、学部・学科について知るために、「四年制大学と短期大学の違い」についての講演会や班単位で大学の学部学科について調べ学習、大学講師による説明などの後、調べた内容の発表会を実施した。(進路指導部)
 - ・ 2年生の学習は、進路選択に大いに役立ったと感じられるが、1年生と同様、社会で活躍している人物に話を聞く機会を持ちたい。(進路指導部)
 - ・ 3年生対象には、受験を前提に、「志望校を調べよう」を目的に一連の学習を実施した。(進路指導部)
 - ・ 面接対策として、専門学校より講師を招いての講演・練習、管理職による練習を実施した。(進路指導部)
 - ・ 約8割の生徒が指定校推薦入試、系列校推薦入試、AO入試を受験し、合格した。生徒の意識の中には、早く決めてしまいたいという傾向が強い反面、進路目標を明確にできず9月時点で受験先を決定できない生徒もいる。(進路指導部)
 - ・ 進路決定後、進学後を考えての学習意欲が低い。(進路指導部)
 - ・ 総合的な学習の一環として、夏季休暇中にオープンキャンパスへの参加を義務付けた結果、少しは進路意識を持ったようである。(2学年)
 - ・ 総合学習や定期考査の振り返りなど、折に触れ日々に学習が進路につながることを伝えているが、生徒の意識に

は、日々の学習が進路に繋がっているという意識は少なく、真面目に授業に取り組めない生徒も存在する。(2学年)

- ・ 大学入学が安易になる社会状況の中で、いかに生徒の進路意識・モチベーションを高め、上位校を受験させられるかが今後の課題。(進路指導部)
- ・ 総合的な学習のうち、調べ学習については、教員側の準備が必要。(進路指導部)
- ・ 進路資料を教員、保護者、生徒に提供する。
- ・ 入試制度に関する情報が御寺担任へ伝え、担任や生徒、保護者からの問い合わせにはリアルタイムで返答するよう心がけた。(進路指導部)
- ・ 指定校については、7月10日前後に公表しているが、時期的にもこの頃が良いと考えられる。(進路指導部)
- ・ 今年度より、3学年担任及び生徒がいつでも自由に求人情報が閲覧できるように求人票ファイルを3学年の机の上に設置、有効であった。(進路指導部)
- ・ 職員室内に就職者用資料(求人票やセミナー案内)、看護進学希望者用資料、歯科衛生士進学希望者用資料などを配置し活用した。(3学年)
- ・ Fine Systemの活用方法については今後の課題である。(3学年)
- ・ 新学部、学科、入試制度について情報を収集し、教員、保護者、生徒に情報を提供する。
- ・ 看護学校希望者に対し、専門学校による説明会、模試を実施。看護学校進学相談会や「一日体験事業」に参加。希望者4名中3名が既に決定。(生活指導部)
- ・ 就職希望者に対し部として求人情報の提供、就職説明会や合同求人説明会への教員・生徒の参加などを行い対応した。(進路指導部)
- ・ 本年度より帝塚山学院大学と協定校を結び、2名の生徒がこの制度を利用して合格。(進路指導部)
- ・ 指定校枠拡大を目標に、重点目標校を設定し、指定校の依頼を行ったが、受験実績がないためか、獲得には至らなかった。来年度以降の課題とする。(進路指導部)
- ・ 進路指導室のパソコンが老朽化。来年度には交換をお願いしたい。(進路指導部)

希望進路の達成

- ・ 模擬試験を有効活用し、長期休暇中を中心に進学補習を実施する。
- ・ 模試受験前には「ワークノート」や「ワンウィークトライアル」を配布し、担任が提出状況を把握した。受験後は、結果分析の時間を持ち、各自が振り返りを行った。(進路指導部)
- ・ 模擬試験実施前には「ワークノート」を課題に与え、教員が点検を行うなど意識の高揚に努めたが、指定校や協力校、公募推薦試験を受験する生徒が多く、活用できたかは疑問。(3学年)
- ・ 新任の先生方を対象にファインシステム講習会(6月)を行った。また、システムの効果的運用のために進路指導部員を対象に講習会を行った。今後も継続して行いたい。(進路指導部)
- ・ ファインシステムは全教職員が閲覧できるようシステム化されている。しかし、担任以外に活用されていない傾

向にあるので、利用についての啓発を今後も続けたい。(進路指導部)

- ・ 模擬試験の運用について部内で検討中。基本的には「ベネッセ」の模擬試験を行うことに異論はなかったが、本校の実情に合致しているのかという意見も出た。来年度も継続して審議。(進路指導部)

検討の結果、次年度はベネッセを継続採用。(進路指導部)

- ・ 全学年進路希望調査を1学期後半に実施。3年生は4月にも必要。データベース化も検討。(進路指導部)
- ・ 模擬試験に対する意識が低い(2学年)
- ・ 進路未決定者5名(受験中を含む)(3学年、進路指導部)
- ・ 就職希望者に対する指導について検討が必要。(進路指導部)
- ・ 1,2年生に進路希望調査を実施。夏期休暇中のオープンキャンパス参加・レポート提出は有効。(進路指導部)

併設短期大学、系列大学との連携

- ・ 大阪女子短期大学には28名(公募推薦試験受験予定者3名は含まない)大阪商業大学に1名、神戸芸術工科大学に1名が合格。(進路指導部)
- ・ 3年生対象に併設短大の説明会や個別相談を実施、授業内容や就職状況を説明した。今後は、総合学習の中に組み込むことも検討。(進路指導部)
- ・ 2年生対象に、併設短大説明会を実施した。(進路指導部)